2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	小島 正憲
最終学歴	学　位	専門分野
日本体育大学体育科学研究科体育科学専攻 博士前期課程	修士 （体育科学）	体育科教育（器械運動）、 運動学、バイオメカニクス

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

本学の教育理念（個を尊重した自由な校風の中で、他者から信頼される人格ならびに能力を有する自立した職業人を育成する）に沿って、学生を育てていく。具体的には授業の中で、学生の主体性を育てられるようアクティブラーニング型の授業方法（Think-pair-share、マイクロ・ディベート、多人数双方向型授業など）を取り入れて行っていく。

（目標）

本学における「三つの言葉」（建学の精神：真に信頼して事を任せうるじんかくの育成）／校訓：真面目／教職員の心構え：子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり）を念頭に置き、学生指導に従事する。特には、全ての授業において当たり前にできることを徹底する。具体的には「挨拶ができる、時間は守る、提出期限は守る」などである。そのことが「真面目」を目指すために重要不可欠だと考える。

（方針）

授業を通して「生きる力」を育て、社会性の高い教員やスポーツ指導者を目指す学生を育成していく。

（計画）

担当する授業のなかで自己啓発の話をする。私の経験から、自己啓発系の話をすると学生は興味津々の面持ちで耳を傾けてくれるため、その状況を積極的に利用し、学生教育の一環として用いる。具体的な方法として、授業の節目に（3／15回）ちょっといい話と題して5分程度の話をすることで、学生との心の距離を縮め、学生生活に何らかの刺激を与えたいと考えている。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

専門スポーツ実習（器械運動）、人間健康学、技術トレーニング演習、保健体育教育法Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

専門スポーツ実習（器械運動）、トレーニング実習、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、教職実践演習（中・高）、卒業研究

○教育方法の実践

担当授業の演習及び実技全般において、コミュニケーション能力を向上させるためにグループワークを積極的に取り入れた。そのことで、学生同士のコミュニケーションが取れて授業にまとまりができ、教員側としても非常に授業が運営しやすくなった。また、演習のことになるが「私の１週

間の出来事」と題して、授業のはじめに一人 3 分間程度の自己プレゼンテーションを実施し、人前で話すことを習慣化させるようにした。

○作成した教科書・教材

専門スポーツ実習（器械運動）及び教職実践演習において、授業の質を向上させるための評価シート（振り返りシート）を作成した。そのことで、授業の理解度が高まり、結果として授業の質が向上した。

○自己評価

授業全般の自己評価は納得のできる 1 年であったと思う。今年度は、自己評価をするための授業評価（FD アンケート）がなかったのであくまでも自己判断であるが、例年と同じく学生の授業に取り組む姿勢や出来も良く、反応も上々であったように感じている。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

中学校保健体育科教員を対象にした器械運動授業の意識調査について

○目標・計画

（目標）

今年度の目標は、上記の学術論文を国内の学会誌に投稿し、アクセプトされるよう励む。

（計画）

研究日や夏季・春季休暇期間を利用して、研究活動を行う。具体的には、学会や講習会等へ積極的に足を運んで見識を広げつつ、年1本以上の論文を投稿する。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・西尾敦史、大勝志津穂、尚爾華、小島正憲ほか『人間健康学』唯学書房、2023 年、118 頁～127 頁

（学術論文）

・小島正憲『マット運動における授業方法の一考察－学生のアンケート調査から－』東海学院大学紀要第 9 号、2015 年、137 頁～144 頁

・齋藤義雄、小島正憲、長瀬啓子、安藤雅夫、川崎億子『学科で取り組むカリキュラム改善』東海学院大学紀要第 9 号、2015 年、145 頁～162 頁

・小島正憲『マット運動における指導法の一考察－マット運動【倒立編】－』東邦学誌第 45 巻第 2 号、2016 年、1 頁～14 頁

・橘廣、長谷川望、小島正憲『「教職実践演習」を中心とした教職科目の検討 : アクティブラーニングの視点から』東邦学誌第 46 巻第 1 号、2017 年、103 頁～118 頁

・小島正憲『倒立姿勢の「腰が反る」動作を改善するための事例的研究－マット運動から－』東邦学誌第 46 巻第 2 号、2017 年、79 頁～92 頁

・小島正憲『保健体育科教員を対象にした器械運動の意識調査－マット運動について－』東邦学誌第 49 巻第 1 号、2020 年、1 頁～9 頁

・小島正憲『ラジオ体操の実施効果における調査研究－大学生を対象として－』東邦学誌第 49 巻

第2号、2020年、13頁～20頁

・MASANORI KOJIMA, YOSHINORI KINOMURA, KENJI KUZUHARA, Development of observational indicators for evaluating handstand posture in the mat exercise in physical education class: validity and reliability, Journal of Physical Education and Sport ® (JPES), Vol 21 (Suppl. issue 3), Art 266 pp 2087 - 2096, July.2021 online ISSN: 2247 - 806X; p-ISSN: 2247 - 8051; ISSN - L = 2247 - 8051 © JPES

・小島 正憲、小島 万弓、松尾 亜美、中学校保健体育科教員を対象にした器械運動授業の意識調査－跳び箱運動－、東邦学誌第50巻第2号、2021年、1頁～8頁

・小島 正憲、小島 万弓、松尾 亜美、倒立静止における事例的研究、東邦学誌第51巻第1号、2022年、53頁～59頁

（学会発表）

・小島正憲『音楽がスポーツパフォーマンスに与える影響－体育実技の授業から－』第63回東海体育学会、2015年、愛知県立大学長久手キャンパス、口頭発表

・小島正憲『音楽が体育実技に与える心理的作用－学生を対象としたアンケート調査－』第64回東海体育学会、2016年、名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎、口頭発表

・小島正憲『マット運動における倒立の指導法について－新たな指導法「ヤジロベーの導入」－』第65回東海体育学会、2017年、皇學館大学（三重県伊勢市）、口頭発表

・小島正憲、木野村嘉則、葛原憲治『初心者の倒立における評価指標の提案－体育授業における倒立運動の評価を目指して－』第68回日本体育学会、2017年、静岡大学静岡キャンパス、ポスター発表

・小島正憲『器械運動における保健体育教員の意識調査－中学校を対象にして－』第33回日本体操競技・器械運動学会大会、2019年、駒澤大学駒沢キャンパス、一般発表

（特許）

なし

（その他）

なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

今年度は申請していない。

○所属学会

日本体育学会（体育科教育、コーチング、バイオメカニクス）、スポーツ運動学会、スポーツパフォーマンス学会、日本体操競技・器械運動学会、日本幼児体育学会、日本教科教育学会

○自己評価

2022年度の研究目標は、「中学校保健体育科教員を対象にした器械運動授業の意識調査について」の学術論文を国内の学会誌に投稿することであった。結果は残念ながら、研究が思うように進まず論文の完成には至らなかったので、次年度に持ち越すことにする。しかし、他のテーマの学術論文を2本と本学部のテキストを書くことはできたため、それなりに満足している。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

今年度も引き続き、「入試委員会、中高教職課程委員会」に配属された。特に、中高教職委員会における教員の育成は人間健康学部の柱の一つであるため、さらに力を入れて臨んでいく。加えて、教職を目指す学生には教員の魅力を熱く伝えることで教職志望者を増やしつつ、教員採用試験対策の充実も図る。また、教職に関わらない学生においても時代のニーズに沿った、将来（就職）に繋がる指導をしていく。

（計画）

人間健康学部の教員として少しでもリーダーシップが発揮できるよう行動していく。加えて、昨年度と同様に与えられた使命感を持ち、役割を全うしていく。

○学内委員等

中高教職課程部会、入試委員会

○自己評価

上記の目標は達成できたと考えているため、それなりに満足している。具体的に中高教職部会としては、部会内の役割（1 年生のガイダンス説明や教職カルテ作成など）は全うでき、特別講座でも学生に向けた教採対策をすることができた。入試委員としては、入試の試験監督業務と大学共通テストのサポートもしっかりとできた。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

「東邦学園地域スポーツクラブ（体操教室）」は今年で 4 年目を迎えられた。今後も長く続けられることを目標に、地域の子ども達に向けて楽しく体を動かすことのできる機会を与えられるように努力する。また、コロナが完全に消えたわけではないので、予定通りに教室を開講することは難しいと思われるが、できるだけ柔軟性を持って配慮のある対応をしていくことで、退会者を出さないようにしたい。

（計画）

大学主催の「公開講座・大学祭」などの催事や連携事業に、積極的に参加していく。具体的には、体操や器械運動を中心とした講義や教室ができる場を設ける。

○学会活動等

特なし

○地域連携・社会貢献等

特になし

○自己評価

コロナ禍のため、思うように活動することができなかった。しかしながら、「東邦学園地域総合型スポーツクラブ（体操教室）」においてはしっかりと運営でき、子ども達に指導できたため、それなりに満足している。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

特になし

Ⅵ　総括

今年度は授業や学生指導、研究活動、委員会の業務などはしっかりとできたため、それなりに満足できる1年であった。しかしながら今年度もコロナの影響を受けて、大学運営や社会貢献の面ではあまり満足のいく1年を送ることができなかった。

現在は少しずつコロナが落ち着きを見せているので、昨年度できなかった研究活動、社会貢献については特に力を注ぎたいと考えている。また、研究については科学研究費や研究助成金が獲得できるような申請書を作成し、採択されることを目指して日々研鑽していく。

以　上